

インドネシアの地に足が着いたとき、お香のような香りが鼻にまとわりついた。ホームステイファミリーと合流することになった。ペアの名前を呼ばれたとき、プトゥリは私の手を引いてくれた。その時、インドネシアの家族のやさしさに触れたのであった。テリマカシとスラムツマランとカマールクチルしか分からなかった私だったがその場を乗り切ることができた。

その日の夜ご飯はトムヤムグンだった。私は辛くて食べ続けられなかった。しかし、ホストファミリーは平然な顔で食べているのである。それには驚いた。

二日目、朝5時くらいに魅惑的なコーランが大音量で町中に流れて私は目が覚めた。シャワーを浴びて、甘いパンと紅茶を口にした。

次女のスフラが領事館まで送ってくれた。領事館に向かう途中、車の窓から見たベチャやタクシー、モーターバイク、そして日本車。何しろ一番驚いたのは、車やバイクの多さだった。渋滞は日常茶飯事で、その光景が新鮮に感じた。

領事館に着いて、メダン市長さんにお会いした。自己紹介のときは本当に緊張した。しかし、メダン市長さんは寛大な人で打ち解けやすかった。後日、配られた新聞は朗らかさを感じさせる一枚となった。その一方で私の表情は緊張感を伺わせているのであった。

その後、モスクに行った。私はスフラのアドバイスで貸してくれたヒジャブと自分のズボンを持って行った。そのおかげで、タイムロスせずにモスクに入ることができた。モスクの中では女の人们があぐらの姿勢で座っていた。そして、魅惑的な曲のようなコーランが流れていた。

三日目、独立記念日に参加した。盛大な行進のパレードに国歌や劇、インドネシアの楽器を使ったミュージックを披露していた。日本の建国記念日は国旗が掲げられるくらいで、インドネシアの独立記念日のような盛大さはなかった。

四日目、バスで7時間かけてアジアンテイストなホテルに行った。その日は、ほとんどがバス移動だった。夜、商店街に行くと、私は500円の本でできたバックを3個も買ってしまった。値切りをせずに。それにしても、合計で1500円だから安いと感じた。

五日目、朝から船に乗ってトバ湖へ向かった。トバ湖はとても涼しくてカーディガンを持ってきておいて良かったなと感じた。最初に行ったフロントで配られたパイナップルジュースが緑色で衝撃をうけた。夜のビュッフェの時に生演奏で、流れていた曲が日本の曲でそれもまた、衝撃をうけた。トバ湖は本当に寒かった。ホテルの窓の外を見れば、すぐそこが、湖だった。

六日目は、ほとんどがバス移動だったが、途中でブレスタギーによった。そこで、マンゴスチンを買った。

七日目は、ホストファミリー同士が集まってビーチに行った。ここで一句読もう。

久々に 子どもと遊び 少女気分

その後、私達はダイアナのホラー映画を見に行った。

その夜、私は大失態をした。ホストファミリーの家族の親戚が集まり野外レストランでお祖母さんの誕生会を行った。湿度と気温が高いせいで具合が悪くなった。しかし、スフラが「私たちの責任だから」と言ってくれた。「私の自己管理のせいなのに、なんてやさしいの。」と思った。

八日目、プトゥリの学校に行った。抹茶のポッキーとチョコビを持ってプトゥリの教室に行ったら、賑やかで人気者になった気分だった。日本の文化で習字を通して異文化交流をした。プトゥリの漢字を「風鳥」にした。

その夜、ドリアンを食べた。香が強いが味は美味しかった。

九日目、長女ルニがバックをプレゼントしてくれた。思いがけなかったことで、驚きと嬉しさでいっぱいでした。

日本領事館での夕食会では感想を発表した。私はホストファミリーの心温まる話をしたら、プトゥリが「Thank you」と言ってくれたことが今でも心に残っている。

十日目、遂に別れの時が来てしまった。姉妹が付き添ってくれた。スフラはスターバックスでコーヒーを買ってくれて、ルニは荷物を持ってくれた。プトゥリとも写真を撮り、遂に私は大号泣しながらインドネシアを後にした。

